2021年度岐阜県演劇大会　一日目　１校目　　≪講評文≫

加茂農林高校 「海賊サーク・シャー・トムのダイヤモンド」

◎　□　△　○　▽　☆　◎　□　△　○　▽　☆　◎　□　△　○　▽　☆　◎　□　△　○　▽

加茂農林高校さんは、「観客と共に大冒険へ行きま賞」です。迫力のある演技、壮大な舞台装置、臨場感のある照明や音響で、見ている人も一緒に伝説のダイヤモンドを探しに冒険に出ていくような気分になったからです。私もぜひダイヤモンドを見つけて願いを叶えたいです。

教室・鶏小屋・海賊船とめまぐるしく変わっていく舞台。地区大会より工夫がされて、どの場面なのかが分かりやすくなっていた。ただ、「私」の現実、劇中劇（文化祭の劇）、現実のようで劇中劇、夢の中の世界、その境界があえてはっきりさせてないで、暗転等用いないで、一瞬に変わっていくところが劇的でワクワクしました。ぐいぐい引き込まれました。

コロナ、就職難、進学困難、購買値上がり、虐待、大会中止、文化祭中止。コロナだから仕方がない、点数が足りないから仕方がない。就職するためには、あえて本音を隠すのも仕方がない。それが大人になること？しかし、〈武藤さん〉はそんな理不尽な運命にあらがいながら、自分の童話の主人公、永遠の子ども〈ピーターパンⅡ〉に語らせます。「夢をなくしちゃいけないんだぜ！」

コロナで、いやその前から、どんどんシステマティックになって、何でも分かるようになってしまった。タブレットはもらったけど、夢はだれもくれない。あふれる情報、知識、全て見えてしまう。だから夢は見てられない。やる前から分かってしまう。「お前はもう死んでいる。」海賊は言います。「望のない人間は死んでいるのと同然なのですよ。」下手に望まないで、考えないで、AIに任せていた方が賢明かも知れない、でも、それは人間としての「死」を意味するのでしょう。

講評委員会ではこの劇のテーマは「夢を持っていても現実にならないことが多くあるけど、夢を捨ててはいけないこと。」と考えました。サークシャー・トムのダイヤモンドは何でも叶えてくれるけれど、呪文が必要で、その呪文、秘密の呪文とは自分の夢を語ることなのでしょう。夢は語らない限り実現しない。夢を持って仲間と語ること、それはまさに「演劇」をやるということに他ならないのでしょう。去年は夢の海賊船は出航しなかったけれど、今年は「演劇」という夢を語る場ができた。「この舟に乗れ！」加茂農林高校だけでなく、多くの高校の熱いメッセージ（夢）がアーラに満ち、巷に満ちた。

加茂農林高校、県大会・地区大会の上演校の皆さん、おつかれさまでした。

◎　□　△　○　▽　☆　◎　□　△　○　▽　☆　◎　□　△　○　▽　☆　◎　□　△　○　▽